



第46号  
発行日 1月10日  
発行所 真徳山 天林寺  
発行者 伊藤文元  
〒430-0905  
静岡県浜松市中区下池川町27-1  
TEL (053) 471-6226  
FAX (053) 471-6234

大切な感謝の心



天林寺住職

伊藤文元

**ご挨拶**  
令和五年癸卯<sup>みづのうさぎ</sup>仏紀二五八九年、西暦二〇二三年の新年に当たり、檀信徒の皆様方のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。  
新型コロナウイルスの感染が三年目を迎え、少し下火になりこのまま休息するのかもしれないと思いきや制限が解除になって、感染者がまた勢いを増して心配の種です。油断は禁物です。マスクや手洗い、検温を実施し三密を避けて感染しないよう気をつけましょう。

日々の暮らしの中で…

毎日、感謝の気持ちで日暮らしをなされている方は、人生の最高峰を歩んでいる方です。髪が白くなり、腰が曲がり、杖をつ

いて歩かなければならないという年老いた年齢になっても、まだ不平不満の生活をしている人は幸せではないと思います。人生の締めくくりは感謝の日々であることが一番理想的であります。財産や健康に恵まれ、人が羨むような名譽の地位に就いたとしても、感謝の気持ちが無ければ、豊かな財産も立派な名譽が無きに等しいものになります。たとえ貧乏で、苦しみがあっても、感謝の気持ちさえあれば幸せを感じることができます。

高い塀に囲まれた大豪邸に住んでいても、親子や兄弟の気持ちバラバラで、食事は別々という家庭と、その反対に、狭い住居でありながらも家族が揃って一緒に食事をしている家庭とで

は、はたしてどちらの家庭が楽しいでしょうか。言うまでもなく、家族みんなが気持ちを通い合わせて暮らす方が間違いなく幸せです。あるいは、つらい病気に伏していて、その病気に對して不平不満の毎日で闘病生活をする方がよいのか、それとも、病気があっても、こうして生かされている自分に手を合わせて闘病生活するほうが良いのでしょうか。不平不満の生活は周りの心を暗くさせ、本人自身も苦しく、痛いという感覚ばかりが全身を支配します。

しかし、病気にありながらも、仏様に手を合わせられ、般若心経やご真言が唱えられる人は、健康な時には全く気がつかなくなかった親切心や温情をしみじみと感じることが出来、病気の苦痛もかなり和らぐようです。このように感謝の気持ちで生活することが非常に大切であることがわかります。もしこの世に恨みを残して亡くなると本人は死後に苦しみ、残された家族もその問題に對処しながら生きていかなければなりません。長い闘病生活をしていて、病気の人が家族に不平不満を並べ立てますと、看護する人は身の置き所もなく、やるせないものです。感謝の気持ちによってお互いに深い慈愛が育まれ、温かい心が通

い合うものです。

感謝の念がもたらす…もの

私たちの人生行路は、複雑な人間関係を織りなしながらこの社会を動かしています。みんなが苦勞し、みんなが汗を流しています。簡単には自分の思うようにならないのがこの世の中の仕組みのようです。まさしく、世渡りは大海原の荒波に小舟を浮かべて進むようなものです。

このせちがらい人間社会では、財力や権力は非常に便利な道具です。これらによって人が動いてくれるので大変便利な道具があります。一方、感謝の気持ちに基づき働きには、財力や権力は介在しません。喜んで動いてもらえます。愉しく働いてもらえます。自分を取り巻くすべての人間関係に感謝ができるように、元気で暮らしている内にこの感謝の念を養っていくことが、私たちに課せられた大切な勤めではないでしょうか。

仏さまから、自らいただく

感謝の念は、仏さまを拝めば自然と養われます。仏さまに手を合わせ、家族に思いやりを持つという生活の在り方の中から、本当の幸せがつかめます。感謝の生活をして、本当に豊かな人生をおくりたいものです。



## お寺の ゆく年くる年

天林寺寺族 伊藤 諦子

暮がどんなに忙しくバタバタしても、一夜明けてお正月の朝になると、人皆元旦の厳かの気に向かう心構えになるのは不思議です。日本国中何処の家でも大層忙しいと思いますが、天林寺の大晦日から元旦の二日間の過密スケジュールを追ってみましょう。

大晦日は朝からお檀家様が暮の挨拶にぞくぞくといらして大忙し。夕刻頃になり山内の全員で大掃除。一段落しますと揃って年越しそばならぬうどんとお煮メをいただき解散。それぞれのお寺に帰山なさいませ。寺族の私は「おせち料理」の仕上げをしつつ様々のことをアタフタと続けます。そのうちに除夜の鐘の時刻が近づき十一時四十五分から一声を撞きはじめます。

ご存じのように「除夜の鐘」は百八つと決まっていますが「撞きたい」と集まった方々に「百八つ撞きましたので、ハイ解散！」という訳にはゆかず全員に撞いていただいております。

鐘撞き終って住職はほんの少

し仮眠し、先ほど帰山なさった僧侶方が揃って、早朝五時半より全員で天林寺内外を「元朝祈禱」して巡ります。

終わって全員で新年の祝膳を囲みます。祝膳なれど私手造りのお雑煮黒豆栗きんとんごまめ煮しめの簡単なおせちです。終われば皆さん自坊に帰山。それから年賀客：お寺様や檀家の方々が続き、住職大忙しの元旦です。その後も年賀客は途切れず続きます。やっと一息つけるのは元旦の夜からです。二日間の睡眠不足の解消に早寝をします。

明けて二日三日の楽しみは箱根駅伝のテレビ視聴です。この二日間はお正月としてのんびり出来る日で、日本国中の多くの人が駅伝の若者の走り競い合う美しい姿をテレビの前で応援していることでしょう。

いつ見ても若者達が日頃の鍛錬を期して走り、数知れぬドラマがあり観る側にも計り知れぬ力を与えてくれる駅伝です。年の初めに力強い若者たちに力と清新の希望を分けていただき、私共も新しき一年を始められるような気がします。



よろしくお願ひ申し上げます

天林寺徒弟 長谷川敏正

今回からは、日ごろ感じている事、また、これまで師匠が兼務してきた永松寺の住職を継いで、新米住職として感じた事をお話しさせて頂くこうと考えております。

現在、南区四本松町にあります「永松寺」の住職を、昨年三月より勤めながら、週六日間は天林寺に詰めています。

天林寺には、弟子の私以外にも、納所さんと呼ばれるお手伝いのお坊さんが三名おり、その内、二名は私と同じように住職をしているお坊さんですので、やはり週六日間は天林寺に出勤し、残りの一日で自分のお寺を監視します。

天林寺の住職は曹洞宗関係の「役」にいくつか就いている関係もあり、お忙しいので日々のお年忌等のお経や本堂等のお掃除などは納所さんと私とでお勤めすることが多く、且つ納所さんは私にとって、先輩であり同僚であり、頼れる仲間という存在であります。

私が永平寺に修行に行かせて頂いたのは平成二十四年三月、二十八年五月までの丸四年でした。その後は浜松に戻り、富塚町の実家から天林寺に通う日々でした。通勤は、生まれて初めての

車通勤となったのですが、以前と比べると、歩く量が激減して非常にビックリしました。健康管理のために散歩するなり運動する機会を増やしていかないと、ちよつと危ないな、と思っております。

また、車に乗る機会が増えて感じるのは、昔と比べ「周りを見ない、自分勝手な運転をするひとが増えたな」と言うことです。例えば、交差点での右折待ちに、もうちよつとセンター寄りにずれるだけで後続車が左側を抜かれるのに真ん中に居座ったり、交差点で右折待ちの車がいるにも関わらず、黄色信号で突っ込んだりする車などを見る機会が増えたかなと感じています。個人主義が浸透し、他者を気遣う日本文化の良さが薄まってきてしまっているのかも？とちよつと危惧している昨今です。

今回はほぼ自己紹介で終わってしまいましたが、次回より天林寺や永松寺で感じた事、学んだ事などをお話ししていきます。ご縁を頂き、天林寺の弟子として勤めさせて頂いてから約六年半が経ちました。今後もご指導ご鞭撻を頂き、きちんとした後継者となれるよう精進して参りますので、引き続き、宜しくお願ひ申し上げます。 合掌





なぜだろう

コロナ禍の不安につつまれたまま令和4年が終わり、跳躍が心情のようさうさぎ、年を迎えました。

昨年、日本国内、いや世界を驚かせたのは参議院選挙期間中の安倍元首相銃撃事件でした。遊説中の出来事であり、一部始終は動画を通して瞬時に地球を駆け巡りました。この民主主義を揺るがす行為は多くの人に衝撃を与え、幾多の問題が浮上してきました。中でも、現場で逮捕された犯人の供述から宗教団体の過剰な活動や、選挙を巡る安倍氏や国会議員との接点が報道され国民の疑義を呼んでいます。

事件はこれらにとどまらず、不十分な協議からの国葬催行に岸田首相の手法への反発が生じ、各政党間調整や国会軽視の面においても紛糾を呼び、年を越えての課題を残しました。

一連の流れの行く先はともかく、銃殺犯の動機が「旧統一教会への多額の寄付による家庭破壊」と報じられ過激な宗教活動の現実と反響に驚かされました。

お忘れか、宗教音痴ですか  
安らぎを与え人々の心に潤いをもたらすべき宗教団体が、信者の生活を大きくゆがめ子弟の将来にまで障害をもたらす一連の行為は決して許される事ではありません。

長い歴史の中で時代々々に新興宗教は生まれ布教拡大していきます。ただし、直近(一九九五年)の地下鉄サリン事件ほかのオーム真理教の暴挙は記憶に新しく優秀な人材がテロ組織化していく経緯に世間は唖然としました。また、旧統一教会の名を聞くや、当時センセーショナルな合同結婚式を挙行(一九九二年)、洗脳の恐ろしさへの驚き、特異な布教活動に複雑な思いを感じたものでした。

救い導くのが宗教では？

「明治維新以後、日本は宗教を除外するか弾圧する方向で進んできた」ところが宗教はいっこうなくならない。宗教は人間にとって本質的なものだから。…人間は変わりますが生まれて、育って、死ぬというその運命



は変わらない。…だから宗教がいる。…この宗教とは既成の宗教のことではなく、根底的なもの、あらゆる宗教に共通であり、その基となるものの意味です」。(中村元「宗教を語る」すずき出版)と、専門家は語り、一方では、我が国に渡来した宗教では、包容力のあるお釈迦さまの教えゆえに仏教が広がっても宗教戦争がなかった、と付け加えています。

「宗教」の意味合い

ここでいう宗教と私たちが通常使う宗教との意味合いに違いがあることに気づきます。特にあらゆる宗教に共通で基となる…と強めていますが、なかなか定義は難しく苦しい人間の心の求めるもの…救い・喜び・和らぎの拠りどころ…など人の本質に迫ることが浮かびましょう。一方、新興宗教に見られる、集団の利益を第一義に信仰の深さを寄付または布施の多寡で量る組織なども宗教の語でくられ慣用しています。さてあなたの場合、どちらの意味で使われているのでしょうか？

その答えはご自身に預けるとして、事件を横目にご仏壇に向かえる私たちは静かに合掌できる幸せを仏さまに感謝したいものです。

お世話人さま 決まる

去る十一月二十五日、かねてより厳選しておりました当山のお世話人様が決定いたしました。宜しくお願い申し上げます。

- 石黒 衆 様 (中区蛸塚)
- 細川晋太郎様 (中区山下町)
- 笠原喜由 様 (西区大平台)
- 高林伸慈 様 (中区 幸)

以上

四名の皆様で、檀信徒さま方のお声の聴き継ぎもさることながら天林寺の円滑な運営のお手伝いをお願いいたしております。

壁面工事始まる

国道一五二号線の両脇壁面のコンクリートブロックの劣化が著しく、道路上へ落下する危険があるとの要請を受け、その対策工事が始まった。対象箇所はまさしく当山の敷地に接する場所であり、一日も早い完成を待たれる。

尚、工事の保全には万全を期しているが、当該歩道の通行には充分の気を付けていただきたい。





〓報告いたします

大般若会・新年拝賀式 一月十二日

コロナ感染も新型オミクロン株の感染拡大が連日伝えられ落ち着かぬ正月明けである。寒波に見舞われ日本列島、浜松の地は風強く、横殴りの雨。

定刻十一時、殿鐘が打たれ鉦の音が届き、導師が入堂、一気に緊張感につつまれる。

導師、僧侶が五体投地の礼拝を三遍、総代様もならい、三拝する。終えて、新年ならではの「散華」：道場を清める行い：が丁寧になされる。

ご本尊様に「献湯菓茶」がなされ、仏典中最大のお経：「大般若波羅蜜多經」の転読、続いてねんごろな読経へと移った。須弥壇には般若札が二つの束。檀信徒家の平安、無事を祈禱した札で、各戸に配られるのである。

「新年拝賀式」へ移り、ご開山・傑堂義俊禪師さまへのご挨拶。総代さま方も焼香された。

法要を終

え、導師の方丈より新年の賀詞に加えての一言があり、天林寺の新年が始まった。



転読

春の彼岸法要 三月十八日

五波六波と続くコロナ禍の中、彼岸会も三年目を迎えた。「彼岸法要に移ります」とのご案内に従い導師以下、参会者一同が三拝、修証義が唱えられる。朗々と堂内を満たす経を耳に浴びながら、人それぞれにご先祖をしのび、今あることに感謝する...

読経が続く中、回し香炉が檀信徒ひとり一人に渡され、本堂を一巡りする。

法要が終わり外に出ると、陽は中天にあり空気は冷たかった。



回し香炉

山門施食会(孟蘭盆会) 七月十五日

昨年同様午後一時と三時の二回に分かれ、執り行われる。受付を済ませ、お供え物を預け、代わりに感染予防の薄いゴム手袋を受け取る。一瞬驚き、戸惑いの質問も出るが、「コロナの予防で...」の言葉が終わらぬうちにご理解、納得されて本堂に向かう。

定刻一時、



水を手向ける

秋の彼岸法要 九月二十日

殿鐘が鳴り導師の文元方丈が入堂。「檀信徒さまも掌を合わせ、三拝！」。全堂挙げて法要に入る。般若心経を読み上げた後、「山門施食会」に移り、読経。終わると導師は個々に新仏の戒名を奉読される。読み込みが終わり経の流れの中、新亡家のご家族は精霊棚に向かい水を手向け、ご冥福を祈った。夕闇迫る十九時、方丈さまはじめ僧侶が山門前に出座、精霊送りの法要が営まれた。

鐘が鳴らされ、導師が入堂。きびきびとした動きで本尊さまに香を焚いて一礼。次に、五体投地の礼拝を三度、和尚さま方も倣う。同時に参会者も合掌、礼拝を繰り返す。やがて献湯菓茶から読経に移る。

法要はご開山傑堂義俊さまからの歴代住職さま方、そして檀信徒家ご先祖さまの霊に祈り感謝し、子孫の安らかな暮らしを願うことにある。



方丈

〓案内いたします

●二月十二日(祭)稻荷大祭

福引 (本堂) 十時より奉納茶会(天真閣) 十時より祈禱会 (稻荷堂) 十五時よりは催しますが、稲荷楽市、甘酒、投げ持ちは中止と致します。



▲お茶会



◀ご祈禱を終えて

●三月十八日(土)春のお彼岸会  
法要は十三時半から予定はしていますが、コロナ感染状況によってお寺内にてのお勤めになることもあります。

◎ご協力ください。

当山へはマスク着用、三密を避けてのお参りを願います。また行事内容の変更もあり得ることをご承知おきください。